

## 「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第二弾！を実施しました。

2025年10月16日（水）18時から「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第二弾！を実施し、学部生16名、大学院生2名、研修医1名、医師1名、教職員4名の合計24名の参加がありました。

今回は、島根大学医学部地域医療学講座の孫 大輔先生、株式会社 CNC・コミュニティナースの多々納 知鶴先生をお招きました。

まず初めに、多々納 知鶴先生から「“まち”に出て “つながり”でケアする～おせっかいと社会的処方～」をテーマにコミュニティナースの在り方について、ご講演いただきました。

地域住民の方のくらしの導線上で地域の方と出会う取り組みや、住民の方との関わり方や背中の押し方など、地域の方と一緒に『心と身体の健康と安心』を目指す、まちのみんなの良い“おせっかい”=コミュニティナースの取り組みについて、実例を交えてご説明いただきました。

ご説明の最後に、それぞれが考える個人の情熱、地域に求められる期待や役割、実践の可能性について考え、意見を出し合いました。



続いて、孫 大輔先生から「地域志向のプライマリケア－社会的処方と文化的処方－」をテーマに地域医療の取り組みについて、ご講演いただきました。

地域志向性とプライマリケアの大切さや、病院で待っているだけではなく、自らが地域の中へ出向き、地域住民とのコミュニケーションを取りながら「ゆるいつながり形成」を支えていく取り組みについて、孫先生が立ち上げられたプロジェクトをご説明いただきました。

また、地域医療に従事しながらも、教育・研究活動、地域の活動にも取り組まれ、短編映画の制作など、多岐にわたって活躍されているお話をしていただきました。



参加学生からは『コミュニティ「ナース」、文化的「処方」など、既存のコミュニティや文化活動に医療の要素が加わることの意味や価値を、考えさせられました。』といった感想があり、本講演は盛況のうちに終了しました。

(この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法人 滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました)